

# 総合的学習の要素を取り入れた情報リテラシー授業の 計画・実践・評価

村井万寿夫\*1

Email: murai@seiryu-u.ac.jp

\*1: 金沢星稜大学人間科学部こども学科

◎Key Words 情報リテラシー, 総合的学習要素, 主体的問題解決

## 1. はじめに

教職課程で学ぶ学生にとって、従前は2～3年次で配当されていた「総合演習」の科目に代わり4年次の「教職実践演習」の科目になったことから、高等学校までの総合的な学習の時間で身に付けた力（自ら考え判断する力、主体的に問題解決する力など）を発揮できることが少なくなった状況にある。

そこで、1年次後期科目「情報リテラシー応用」（選択）を知識や技能を学ぶ授業ではなく、前期科目「情報リテラシー基礎」（必修）で身に付けた知識や技能を生かし問題解決する授業を計画・実践し評価を行った。

## 2. 総合的学習の要素について

総合的な学習の時間（以下「総合的学習」と称す）では「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する」<sup>①</sup>などが小中高等学校の共通の目標である。

この目標達成のための方法の1つにコンピュータの活用がある。インターネットで調べる、文書作成ソフトを用いて表したりまとめたりする、プレゼンテーションソフトを用いて伝えることなどが小学校から高等学校まで共通に取り組みされている。

これらのことから、コンピュータを使った演習科目である「情報リテラシー応用」の授業に総合的学習の要素を取り入れることにした。具体的な総合的学習の要素については、学習指導要領の目標で示されている資質能力（含態度）を分解し、「情報リテラシー応用」の授業への適用度について検討した（表1）。

表1 分解した資質能力等の要素と適用度

資質能力等の要素	適用度
・自ら課題を見付ける	○
・自ら学ぶ	◎
・自ら考える	◎
・主体的に判断する	◎
・よりよく問題を解決する	○
・学び方を身に付ける	○
・ものの考え方を身に付ける	◎
・主体的に取り組む	◎
・創造的に取り組む	◎
・協同的に取り組む	◎

[○適用 ◎十分適用]

## 3. 授業の計画（シラバス）

### 3.1 授業意図

小学校ではどのように情報社会を享受しているか考え、こども教育のための情報活用について演習を通して学んでいく。演習は、こどもが楽しんで学ぶための教材をスマホやパソコンを用いて作る、作った教材を紹介し合う、そして相互評価を行うことを中心とする。

### 3.2 授業計画

15回の授業に分解した各要素を取り入れた（表2）。

表2 授業計画（全15回の内容）

回	授業の内容
1	教材サンプルを見ながら授業の見通しを持つ
2	PowerPoint 教材を試作し紹介し合う
3	作成した教材に音声データを組み込む
4	ネット上の教材を閲覧して自作教材を考える
5	小学生用のフラッシュ型教材を作る
6	教材を紹介し合い“ベスト教材”を選ぶ
7	SNSによるこどもたちへの影響を考える
8	小学生用のLINEについての教材を構想する
9	絵コンテをもとにLINE教材を作成する
10	教材をペアで批評し合って修正し完成させる
11	教材の発表会を行いレポート作成する
12	小学生用ビデオ教材をグループで構想する
13	ビデオ撮影の練習をして本番の撮影を行う
14	ビデオをコンピュータに取り込み編集する
15	ビデオ教材を完成させてお互いに紹介する

## 4. 授業の選択率

「情報リテラシー基礎」の最終回において、「情報リテラシー応用」の授業内容とペアやグループで小学生用教材を作成することを知らせ、見通しを持たせた。

これをもとに、小学校の教員を志望する学生20人の内17人が選択履修した。選択率は85%と高い傾向を示した（表3）。

表3 選択科目の教員志望の選択率

前期履修生	内教員志望	後期履修生	選択率
35人	20人	17人	85%

なお、前期の履修生35人の内、15人は幼稚園教諭あるいは保育士の希望を持った学生である。

## 5. 授業の実施（概要）

### 5.1 第6回の授業

一人一人がPowerPoint ソフトを使って小学生用のフラッシュ型教材を作成して紹介し合った（図1）。また、それぞれの発表について相互評価した。



図1 4年社会科用の教材紹介

### 5.2 第12回の授業

コンピュータを用いて小学生用 LINE 教材を作成し、お互いに発表した（図2）。また、それぞれの発表について相互評価した。



図2 LINE 教材を発表する学生

### 5.3 第15回の授業

小学生用ビデオ教材をグループで作成し、お互いに発表した（図3）。



図3 グループで作ったビデオ教材の例

## 6. 授業の評価

### 6.1 中間授業評価アンケートより

本学では Semester 授業の中盤（第7回または8回の授業時）に中間授業評価アンケートを実施している。

アンケートは数分で記述できることに重きを置き、授業の終わりにアンケート用紙を配付・回答・回収し、授業担当教員で集約している。

アンケート調査の趣旨は、学生の授業に対する満足度であり、「情報リテラシー応用」履修生 17 人の回答結果は表4のようになる。

満足	まあまあ満足	やや不満	不満
10人	7人	0人	0人
60%	40%	0%	0%

この結果から履修生の全員が概ね満足していることが分かる。

### 6.2 期末レポートより

全15回の授業終了後、期末試験の期間中にレポートを課した。

提出されたレポートからは以下のような感想を抽出することができた。

- ・1年生の授業でグループになって何かを行うという機会が少なかったので、この時間はとても充実したものでした。
  - ・教材発表のように自分で考えたアイデアを他の人に伝えること、グループ活動を通して培った協力して意見を出し合うことはとても大事だと思った。
  - ・自分なりの考えで教材を作ったり自分なりの方法で伝えたりするとすごく充実感があって、毎週のこの時間が待ち遠しかったです。
  - ・ペアやグループで自分の考えを提案したり考えをまとめたりしながら、自分自身の果たすべき役割を最後まで全うすることができたので良かった。
  - ・小学生向けのフラッシュ型教材を考えて作ったときは、どのようにしたら分かりやすく危険について知ってもらえるか試行錯誤した。
  - ・最後の課題で、SNSに関するビデオ教材をグループで作ったとき時間内に完成することができなかったが今までしてきた中で一番楽しかった。
  - ・先生からテーマだけ示され、あとは自分たちで自由に考えて計画して作り、発表するというやり方だったので楽しくできた。
- 以上のようなことから、学生は主体的に問題解決に取り組むことの意義を実感していることがうかがえる。

## 7. おわりに

高等学校までの総合的な学習の時間で身に付けた力を発揮することができる授業を計画・実施し、学生によるアンケートやレポートをもとに評価した結果、授業の目標を達成することができたと思われる。

今後も高等学校までに身に付けた力を大学の授業でどのように発揮させるかを検討し、実施していく必要があると考える。

### 参考文献

- (1) 文部科学省：“小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編”，P.10，東洋館出版社（2008）。